

曲 目 解 説

新しい耳シリーズ Vol. 7

ドラム セレモニー

1921年チェコにスロヴァキアのプラハに生まれた作曲者は、1959年以降アメリカで活躍しており、オーケストラ、吹奏楽等に作品を発表し続けています。この曲は、バリトンソロ、混声合唱とオーケストラのための「アメリカン・テ・デウム」の序章として作曲されたもので、ティンパニ、6トムトムの太鼓系の楽器に木質系打楽器であるウッドブロックと木魚(今回はグラナイトブロックを使用)を組み合わせて使用しています。短い導入の後、6連譜系のパターンがうねりを繰り返すうちに、木魚パートだけが独り駆け抜け、幕開けを告げて曲は終わります。作曲者はアメリカ・インディアンの戦陣でのドラミングに影響されて書いています。1976年の作品。

打楽器のための組曲

吹奏楽の作品が多いので知られる作曲者は1923年アメリカ生まれ。この作品はそれぞれ短いソナチナ、ノットルノ、ロンドの3曲からなり、グロックンシュピールの奏でる旋律を他の打楽器が支えるオルゴールのような響きを持った小品です。1983年の作品。

インブロージョン

タイトルは、「(空気などが)内側に破裂すること」という意味を持っていますが、作曲者によると、この曲のリハーサルを続けていくと演奏者に内なる圧力が高まり、それぞれに「インブロージョン」がもたらされる時を感じるであろうということです。インドネシアのバリ島の音楽をもとにしているということがご理解いただけたと思いますが、2台のシロフォンとマリンバが細かい旋律を、ヴァイブラフォンが大きな旋律を担当し、いわゆる「ソロライン」は存在しません。曲は序奏に引き続き、6つのパートが切れ目なく続きますが、それぞれ楽器により2から5、全体でも5つの使用する音列が定められています。

作曲者は1918年アメリカ生まれ。1982年の作品。

メタモルフォーシス

「(魔力による)姿形の完全な変化、(外観などの)著しい変化」という意味を持つこの作品は1996年の作品です。全体にエスニックのリズムを多用していますが、序奏に続き、「マーチ風」「ラテン風」「サンバ」と盛り上げていきます。演奏会前半の3曲がそれぞれ均質に近い響きを持っていたのに比較して、使用楽器も格段に増え音のカラーが広がったことを実感していただけたと思います。作曲者は1954年アメリカ生まれ。

カリブの祭典

サンバの余韻が残るうちにカリブソやメレンゲのカリブ海周辺のリズムでお楽しみ下さい。この作曲者も1952年アメリカの生まれですが、タム・アム・ラでは「ソロドラムセットと打楽器アンサンブルのための組曲」という派手な曲も取上げています。1998年出版。

バトルステーション

「戦闘配置」という意味の軍隊用語です。4人が会場の周りに立ち観客を囲むようにという指定がありますが、会場の制限と演奏の困難さのため、今日の配置にしています。前の音楽と一転、厳しい響きが耳元で爆発します。曲については多言を要しませんが、組合せの部分、ユニゾンの部分、あるいは方向別の聞こえ方を楽しんでいただけたらと思います。作曲者は1956年アメリカ生まれ。1982年の作品。

ファンファーレ、メディテーション&ダンス

タイトルどおり3つの部分からなり、13分ほどの曲ですが、スッキリしたタイトルに比し、内容はいくつかのリズムからなるテーマを使用し、細かいリズムもあるため、込み入っています。ティンパニのファンファーレから始まります。メディテーションはグラスハーモニカといくつかの楽器の持続音が場の空気を作ります。引き続き入るダンスはシンプルなリズム(演奏者にとっては複雑?)で始まり、だんだん楽器を増やし、マリンバが入って全楽器が揃います。接続部を経てファンファーレのテーマを再現し、3拍子の踊りの輪が広がって大団円です。作曲者は1931年アメリカ生まれ。自分の作品を中心に自ら出版しており、1982年の作品です。